

県立歴史博物館で創作劇「草戸千軒絵巻」

中世の秋祭り“再現”

中世に栄えた草戸千軒町を舞台にした創作邦楽劇「草戸千軒絵巻」が二十一日、福山市西町の県立歴史

福山

博物館であり、同市立新市小三年生や保護者ら約六十人が当時の秋祭りの一日を熱演した。



新市小児童ら 遊びや舞熱演

朝を迎え、市場の準備に忙しい情景からスタート。着物を羽織った中世の衣装に身を包んだ児童らは、お手玉やチャンバラ遊びを繰り広げたり、笛や太鼓などの調べに乗って獅子舞や田楽舞を披露。喜多流の能楽講師大島文恵さん、紀恵さん姉妹、福山市の舞や謡もあった。会場の同館常設展示室は、かやぶきの掘っ立て小屋など草戸千軒町を復元しており、舞台はまさにタイムスリップしたような雰囲気包まれた。

劇に先立ち、児童たちは同館玄関前で、草戸千軒町を題材にしたわらべ歌を合唱したほか、祭りばやしを合奏。観客約二百五十人は子どもたちの姿をカメラに収め、盛んな拍手を送った。

田楽舞を演じた岡田芳乃さん(九)は「木を打ち鳴らす珍しい楽器を使う

中世の祭りの一日を熱演する新市小三年生ら

など、昔と今の祭りの違いが分かった。これからも草戸千軒町について勉強したい」と話していた。

郷土の歴史を学んでもらおうと、同館友の会が企画。市内の小学生が毎年演じており、今回が十回目。新市小児童は二期に入ってから練習を重ねてきた。(西崎哲也)

back

06/10/22
山陽新聞